

◎サイエンスキャンプ2002参加者の感想

サイエンスキャンプ2002（平成14年8月6日～8日開催）が成功裡に終わったことは、No.18・9月号で報告しましたが、このたび、サイエンスキャンプ事務局（財団法人 日本科学技術振興財団）から当所のサイエンスキャンプに参加した高校生の感想文が送られてきましたので、その一部を当人の了解のもと、ここに紹介いたします。

スタート☆ライン**私立清心女子高等学校 小林 紀子
（「大地の呼吸を測る」コース参加）**

今回、私は高三の夏、受験も押し迫る中、一大決心の末、このサイエンスキャンプに参加しました。

去年も友人と一緒に応募し、みごとに私だけ落ちました。友人は、私を地元において、サイエンスキャンプへ。私は彼女がとてもうらやましく、「来年こそは。」とリベンジを誓いました。友人に、サイエンスキャンプでの良さを十分に聞いた私は、今回ようやく手に入れたチャンスに期待とあこがれで胸躍らせました。高校時代にしか体験できない、すばらしい経験になると思っていました。

予想は、的中でした。研究所は、とてもすばらしい所でした。施設や環境もそうながら、研究者の方々がとても親切で、親しみやすく接して下さったので、より一層関心をもって、理解もスムーズにできました。今までに見た事もない装置を直に操作させてもらえたり、野外でのフィールドワークも初めての事ばかりでとても新鮮でした。最先端の研究所で直に見て体験した経験は、私にとって宝物になりました。

また、全国からの高校生との共同生活や意見の交換をする事により、新しい考えや将来の夢等を聞く事により、自分の将来や学習に対してより意欲が生まれました。人の輪が広がっていき、視野も広がっていきに従い、自分自身も大きく成長できたと思います。

もし、「三年だから。受験もあるし。」と思っている人がいるなら、その人こそサイエンスキャンプに参加すべきです。自分をもう一度、振り返り、自分を見つめ直すにはいい機会です。また、将来の漠然としたものが、実体化してゆき、それに向かう気力ややる気もみなぎっていくでしょう。私みたいに☆

私の高校生活最後のサマーバケーションは、私の将来に向かって走り出すスタート☆ラインになりました。

サイエンスキャンプに参加して**大阪府立富田林高等学校 池田 結実
（「樹木の構造と成長の仕組み」コース参加）**

サイエンスキャンプに参加することが決まってから当日まで、私は正直とても不安でした。私は3年生で、文系の学部に進もうと思っているので、そんなことでサイエンスキャンプの実験や講義についていけるのか心配だったからです。ですが、結論から言えば、この不安は全くの杞憂でした。

私は、樹木の構造や成長の仕組みを調べるコースに所属し、樹種による枝での物質貯蔵の違いや葉のついている高さによる葉の構造の相違点などを調べました。こうして文字で羅列すると難しく感じますが、実際はみんなで樹木園に行って色々な枝をとってきたり、ケヤキ林の中に立っている10m程のやぐらに登って葉を取ったりと屋外での活動も多く、とても楽しい時間でした。それに研究所の方々は質問すれば何でも答えて下さいますから難しい話も何とか理解できました。

何より嬉しかったのが、「私は文系だけど将来森林に関わりたい」ということが現実味を帯びたことです。研究所には、樹木の名前の由来などについて研究している方もいらっしゃいましたし、研究者の方の他にも特許関係の担当の方や広報の方がいらっしゃいました。アドバイスをいただいたこともあって、森林への関わり方はひとつではなく、色々な方面から関わられるのだと分かったのです。

これからサイエンスキャンプに参加しようと思っている人の中には私と同じように迷っていたり、不安に思っている人がいるかもしれません。でも、興味を持っていれどどうにかなると思いますが、そんなに難しく考えないという意味で、もっと軽い気持ちで参加してみればいいのではないのでしょうか。必ず自分の世界が広がると思います。

本当に、不安どころか楽しくて、自分の視野が広がった3日間でした。研究所の皆さん、本当にどうもありがとうございました。

今回のサイエンスキャンプを通して・・・**銚子市立銚子西高等学校 堤 慎平
（「樹木のバイオサイエンス」コース参加）**

私は、この三日間で凄く体験をしました。

初日、研究所がやっている一端を説明してもらい、世界一重い木や電子顕微鏡が置いてある部屋にも案内され、感激や興奮の嵐でした。二日目、白衣を着て本格的に実験。遺伝子の話が出てきたときは頭を悩ませましたが、研究所の人が優しく教えてくれて、なんとかついていけました。私が知っている範囲の物がなく、メスやマイクロピペッターなどほとんどが、初めて使う器具で緊張の連続でした。最初はDNAの抽出から始まり、液体窒素を始めて使うときは細心の注意を払らい、その後スギの葉をパウダー状にし、その粉をマイクロチューブに入れるとき、手間取らないように心掛けながらやりました。しかし、結果はよく取れてなく、失敗でした。次はプライマーを使う実験で、前の実験で取ったスギのDNAも使いました。でも、やはり失敗でとても難しいことがわかりました。

次に組織培養をメスとピンセットを使い行いました。細かい作業で、培地に移植するときは緊張しました。そして、初めて見たカルスには、遺伝子組み替えなど、いろいろと活用できると知り驚きました。三日目は実験結果を他のグループに発表しましたが思ったより緊張せず話せたと思います。

今回Cコースで他のメンバーは全て上級生の女性で緊張しました。でも、実験などを優しく手伝ってくれて、なんとか溶けこめました。また、バーベキューもおいしく、その後のミーティングでアドバイザーの吉村利明先生が宿舎で物理の実験を見せてくれたのも、楽しめて、非常に有意義な三日間でした。ぜひ、同じような企画があったら参加したいです。